

2021年1月27日

国際石油開発帝石株式会社  
広報・IRユニット  
(電話 03-5572-0233)

豪州ダーウィン市におけるソーラー水素生成の  
有効性検証開始について（お知らせ）

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、人工光合成化学プロセス技術研究組合（以下、ARPCChem）に2012年の発足当時より参画しておりますが、今般、ARPCChemが豪州の北部準州ダーウィン市においてソーラー水素生成試験設備を設置し、有効性検証を開始したことをお知らせいたします（以下、本プロジェクト）。なお、ARPCChemは国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）の委託を受けて本プロジェクトを推進しております。

ソーラー水素生成は、再生可能エネルギーである太陽光と光触媒によって、水からCO<sub>2</sub>フリー水素を生成することが可能であり、水素社会実現への解決策の一つとして将来の実用化が望まれている技術となります。



ダーウィンに設置されたソーラー水素パネル

当社は、ARPCChem及び東京大学の触媒開発チームが開発したソーラー水素パネルを、国内より日射量が豊富なダーウィンに設置・運転する本プロジェクトを主導し、2020年12月にソーラー水素パネル設置を完了、今般、有効性の検証を開始しました。本プロジェクトは2021年12月まで

# 国際石油開発帝石株式会社

## **INPEX CORPORATION**

継続される予定であり、本プロジェクトの成果は今後の実用化を念頭に置いたスケールアップに貢献することが期待されております。

当社は、今般発表いたしました「今後の事業展開～2050ネットゼロカーボン社会に向けて～」におきまして、中長期的な水素社会の到来を展望し、水素製造・供給事業への展開を図ることを取組事業の一つとして掲げておりますが、今後も他の企業・団体と協力・連携し、気候変動対応に貢献可能な技術の実用化を目指して参ります。

以上